

タウン

カルチャー

ライフ

フォーカ

青い線重ね味わい生む

画家 林 秋夫さん(64) 仙台市青葉区

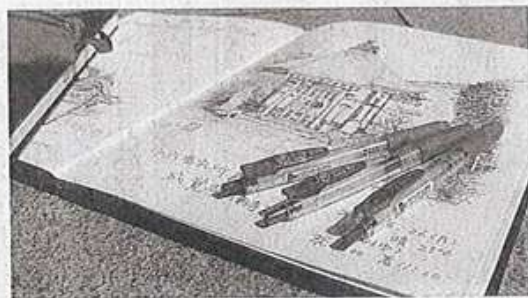
真つさらな紙に、建物や道路、街路樹の輪郭が描かれる。縦、横、斜め、青い線を重ねていくことで、街並みに表情が生まれる。

「線自体は冷たい感じがするが、描き込むことで建物や景色に味わいが出る」と、仙台市青葉区の画家林秋夫さん(64)はボールペン画の魅力を語る。

使うのはゼブラのジェルボールペン「サラサクリップ」。出身は八戸市。高校生で絵を始め、港や船など海に関する事物を好んでモチー

フの青。会社員時代からの愛用品で、滑らかな書き心地が気に入っている。油彩画を中心に制作してきた林さんは、おととしからボールペン画に力を入れる。東日本大震災の翌年に始めた「仙台三十三観音」札所巡りのスケッチで手にしたのがきっかけだ。

心が落ち着かない時期に出合ったのが「仙台三十三観音」だ。気分転換を兼ねて2012年8月から札所巡りを始めた。鉛筆、水彩の具と画材を替え3度巡った。定年退職した17年5月「身近だからこそ逆に面白



愛用するボールペン。主に0.5mmを使い、細部の表現は0.3mm、強調したい部分は1.0mmの線を重ねる

メ モ ゼブラの「サラサクリップ」は2003年に発売されたノック式ジェルボールペン。ボール径は0.3~1.0mmの5種類。黒、赤、青、ブルーブラックを基本とし、「ネオン」や「ピンテージ」シリーズなどを含む全56色を展開する。青は紫色がかった落ち着いた色味が特徴。価格は108円(税込み)。

私の相棒 創作現場

ジェルボールペン



折り畳み椅子に座りスケッチする林さん。1~2時間でF4号の絵を仕上げる

白いのではないかとボールペンを手に4度目のスケッチを始めた。ジェルボールペンは、水

性インクに溶剤を加えて耐水性を高めた特殊なインクを採用。鮮やかな発色、さらさらとした書き味が特徴。「紙への引っかかりがなく、色味も気に入っている」と良さを再確認した。

最近、仙台での初の個展を開いたり、市中心街のアーケードで展示販売したり、作品発表の機会が増えた。「地味かな」との心配をよそに、親しみを持って見てくれる来場者に手応えを感じた。「手軽に描けるからこそ、趣のある建造物や風景を多く残していきたい」と意気込んでいる。(生活文化部・小泉智子)